

泌尿器科

研修指導者名

中川 昌之 速見 浩士 榎田 英樹 山田 保俊 山根 隆史 鑪野 秀一 井手迫 俊彦 下荒磯 裕

メッセージ

泌尿器科は皆様も実習で体験し感じられたと思いますが、マイナーの科という位置づけではありますが、守備範囲の非常に広い科です。腎や膀胱、前立腺の悪性腫瘍、腎不全に対する腎移植や透析、副甲状腺や副腎などの内分泌外科、尿路感染症、小児泌尿器科、臓器脱や尿失禁などの婦人科的泌尿器科、神経因性膀胱などの神経疾患、尿路結石、男性不妊症やEDなどたくさんの疾患をカバーしています。また、これらを治療する場合には近年話題になっているダビンチをはじめとしたロボット手術が最も進歩している科です。

泌尿器科のもう一つの特徴は、外科でありながら内科の領域も多く含んでいるということです。実際に、血液透析や腎臓内科の領域の診療をしている泌尿器科医も多くいます。つまり、自分は外科系は無理だと思っていなくても内科的に治療できる領域がかなり多いということです。高齢化社会を迎え、悪性腫瘍、腎臓病、排尿障害を有する患者は非常に増加していますが、それらを専門的に治療する泌尿器科医の数は少ない（全国に8000名）状況です。また、泌尿器科を訪れる患者さんの3、4名にひとりには女性の患者さんですので女医さんの活躍の場も多くあります。当科では女医さんが働きやすいような環境の整備も行っていますので、積極的にご相談いただきたいと思います。

医師である限り、研究も大切な仕事です。これまで多くの方が大学院に進学し研究を行い、それを学位論文にまとめ海外や国内の著名な大学や病院へ留学しています。当科ではこのように研究にも力を入れて、毎年アメリカやヨーロッパの学会で多数演題の発表を行っています。

最後になりますが、科の雰囲気は大事です。当科では医局内のカンファレンスでは誰もが自由に意見を述べられる雰囲気がありますし、少しでも早く手術の術者として独り立ちできるように皆が教えあう雰囲気があります。職場は楽しくなければ長続きしません。このような教室ですが、皆さまと一緒に仕事ができれば幸いです。（教授からのメッセージ）

研修目標

泌尿器科疾患の診断、治療を学ぶ。とくに尿路性器腫瘍、腎不全、血液浄化療法、副腎疾患、小児泌尿器疾患、尿路結石、尿路感染症、神経因性膀胱について診断、治療ができるようになること。手術手技、術前術後管理の修得のみならず患者様の心理面に十分な配慮のできる医師になること。

研修可能技能

1. 初年度に習得すべき検査や処置：

膀胱、腎盂尿管ファイバースコープ、逆行性腎盂造影、尿管ステント留置、腎瘻造設、前立腺針生検、仙骨硬膜外麻酔、腰椎麻酔、尿路系腹部超音波など。

2. 手術および術前術後管理：

初年度：経皮的腎瘻（PNS）、膀胱瘻、経尿道的手術（TUR）、停留睪丸、TUL、包茎手術などの術者が務まるよう修練。手術の第1、第2助手を行い、2年目以降：難易度の高い手術の助手を経験しながら術者になれるよう修練する。小手術の完成度を高める。

経験できる主な手術：尿路性器腫瘍に対する腹腔鏡手術（副腎摘除、腎摘除、前立腺全摘術、膀胱全摘術など）、開放手術、腎移植、血液浄化関連手技（透析、内シャント造設術）。経尿道的内視鏡手術（TUR）、経皮的内視鏡手術（PNS、PNLなど）、体外衝撃波結石破砕術、小児泌尿器科手術（膀胱尿管逆流防止術、尿道下裂形成術、停留精巢固定術など）



取得できる専門医資格技能

日本泌尿器科学会専門医(卒後臨床研修2年間+泌尿器科専門研修4年間)および指導医
日本透析医学会専門医、泌尿器腹腔鏡技術認定医、腎移植認定医、がん治療認定医、など

特 徴

泌尿器科はメジャーな科ではないので、医局員の数もそんなに多くありません。

これで医局員の仲が悪いと、最悪ですが非常に仲がいい、と言うのは自信を持って言えます。

上の先生にも気軽に話かけられますし、難解な手術も学会の準備もみんなで協力してやっています。

また出身大学も多彩で、北は北海道大学から南は琉球大学までの卒業生が入局しており、学会に行くときのおいしい料理店を調べるのにも困りません。体育会系、文科系人間も様々で当然医師らしくゴルフを楽しむものもたくさんいますが、学会に自転車で行くほどのツーリングを楽しむ者や、仕事前のサーフィンを楽しむ者もいます。また院内対抗の野球の試合に関しても必死に戦っています。

関連病院は鹿児島県内、宮崎県南部を中心に関連病院があります。1~3年ぐらいの期間で関連病院研修、部長出張などをする訳ですが、泌尿器科や透析の一般診療、さらに一般救急までを自分が中心になって行える、やりがいのある期間になると思います。地方では泌尿器関連の開業医院も少ないですし、地域での期待や、患者様との交流を一番実感できると思いますので、僕も地域医療は大好きでした。

さらに幅広い領域で泌尿器科はsubspecialtyが多彩です。癌を中心に腎不全、血液浄化、移植、排尿機能、感染症から小児、女性泌尿器などなど・・・また腹腔内から後腹膜腔の手術、透析関連の手術や、開腹手術、腹腔鏡などの内視鏡手術と基本的な手術手技は全て身に付けられますし、透析を行えば血糖、血圧管理などの内科的知識も習得できます。基礎研究も希望者は大学院入学から海外留学までという流れは出来ています。関連病院も含めて各分野のスペシャリストがそろっていますので、最初のうちは泌尿器科一般を学んで、泌尿器科学会専門医資格を取るのが目標になると思いますが、その後も様々な目標が生まれると思います。学会も泌尿器科、透析関連の学会を中心に癌治療、移植、感染症、内視鏡関連など様々でたくさんの知識を得るチャンスがあります。

現在のところ女性医局員は2名ですが、他大学の泌尿器科教室を見ても女性泌尿器科医の数も増え続けていますし、実際に診療を行っていて、患者様から女性医師による診察を希望する声もたくさん耳にします。日本泌尿器科学会にも「女性泌尿器科医の会」というものもあります。我々も女性泌尿器科医の確保を最重要課題の一つにあげていますし、産休、育休の制度も見直して、育児をしながらでも医局に在籍して、自分のペースで仕事を続け、タイミングをみて本格的復帰も可能ですし、各自のペースで続けてもいい規則と雰囲気を作っています。男性、女性を問わず気軽に医局の見学に来てください。

以上、当科の魅力について書いてみました。

これからの拠点とする場所、就職先を選ぶのは難しいですが、鹿児島で泌尿器科医を目指すというのを一つの選択肢にさせていただけると光栄です。皆様に逢えるのを楽しみに待っています。

研修参加条件

卒後臨床研修修了者

研修施設

鹿児島大学病院ならびに鹿児島大学泌尿器科関連病院。1年目は鹿児島大学病院、2年目以降は大学病院あるいは日本泌尿器科学会認定専門医教育施設の関連病院

関連病院 (<http://www.kufm.kagoshima-u.ac.jp/~urology/kanren.html>) 。



研修期間

専門医取得には卒後臨床研修終了後、泌尿器科専門研修4年間を要する。

研修プログラム



現在研修中の医師数

	大学内(うち大学院生の数)		大学外
卒後3年目	1	(0)	0
卒後4年目	1	(0)	1
卒後5年目	1	(0)	0

プログラムの募集人員及び選考

【募集人員】 1～8名

医局の様子



研修医の学会発表

野球も熱い!!!

研修と大学院の関係

希望者が順番で1～2名ずつ大学院に進学、2年間のベッドフリー期間に研究を行っている。現在では卒業後5～10年目に大学院に入学していることが多い。大学院中に必要あれば国内外に研修可能である。当教室では留学は推奨され一般に学位取得後に行っている。

処 遇

大学病院の医員としての待遇

研修終了後の進路

専門医取得後は日本泌尿器科学会指導医の取得を目指し、後進の指導ができるよう修練することが望ましい。一般には大学あるいは関連病院での勤務となる。泌尿器科医師として人間的にも技術的にも成長し、後進の指導ができるようになった時に独立するのが望ましい。本人の希望と力量が優先される。

指導医・専門医

日本泌尿器科学会専門医（17名）指導医（12名）

日本透析医学会認定医（4名）

日本臨床腎移植学会認定医（3名）

泌尿器腹腔鏡技術認定医（5名）

がん治療認定医（5名）

プログラムに関する問い合わせ窓口

鹿児島大学医学部 泌尿器科学教室

〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘 8-3 5-1

電話：099-275-5395 FAX：099-275-6637

E-mail：urology@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp

